



表紙の写真

奈良・紀寺団地

奈良県奈良市  
東紀寺町

平成15年、「都市風景と田園風景の接点に古都の新しい街の創造」のコンセプトのもと生まれ変わったUR賃貸住宅です。塀や瓦等に東大寺二月堂の意匠を取り込み、また、万葉植物を使った植栽で、風情ある奈良のまちなみになじむ住環境を生み出しています。この景観は、第16回奈良市建築文化賞景観賞を受賞しています。

☞ アンケートを実施しています ☞

同封のはがき、およびUR都市機構のホームページにて、本誌に関するアンケートを実施しております。ご意見、ご感想等をお寄せください。

…………… 編集後記 ……………

今号では、大阪の都市再生の起爆剤として期待が寄せられる大阪駅北地区の都市再生事業を始め、対談や事業概要記事、著名人からUR都市機構へのメッセージ等、「西日本支社のまちづくり」にクローズアップしてご紹介させていただきました。

また、脚本家の倉本聰氏が地球の関わりについて語る「倉本聰の地球に暮らす 自然と住まう」、近代建築の巨匠ル・コルビュジエが近代都市に描いた夢を辿る「ル・コルビュジエの描いた『輝く都市』」、また、街の景観のなかに見る四季「都市の景観に四季を愛でる」の3本の新連載がスタートしました。偉人や著名人のフィルターを通して、人・街・自然の理想的な関係性を模索していければと考えております。ご高覧いただければ幸いです。

季刊『ユアールプレス・夏号』

Vol.16(2008年7月)

発行/独立行政法人都市再生機構

〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1

横浜アイランドタワー

Tel.045-650-0881 Fax.045-650-0889

編集・制作/株式会社博報堂

印刷/株式会社大分アロー印刷

環境に対する取り組みについて

『UR-ecoプラン2008』を策定しました

UR都市機構の地球温暖化対策実行計画「UR-ecoプラン2008」は、当機構が行うすべての業務分野を対象として、地球温暖化対策の基本的な考え方や具体的な方策をまとめたものです。UR都市機構はこの計画に基づき、地球温暖化対策を効果的かつ確実に実施し、平成25年度における二酸化炭素排出量を、平成17年度を基準として14,000t削減することを目標とし、全社を挙げて取り組みを進めることを公表しました。

『平成20年版環境報告書』を作成しました

本年は、特集として地球温暖化対策実行計画「UR-ecoプラン2008」と、事業完了を迎えた八王子みなみ野シティの環境共生の取り組みを取り上げました。また、年次報告各章では環境配慮方針に沿った様々な取り組みの紹介に合わせ、UR賃貸住宅の事例紹介「団地×eco」を掲載しました。



環境報告書は、UR都市機構の幅広い業務と環境との関わりを皆様にご覧いただけるようお伝えすることを意図して年に1度作成・公表しているものです。UR都市機構の総合的な環境への取り組みについてご理解いただく一助になれば幸いです。

なお、「UR-ecoプラン2008」と「環境報告書」は、ホームページでご覧いただけます。

UR-ecoプラン2008

<http://www.ur-net.go.jp/shakai-kankyau/pdf/ecoplan2008.pdf>

環境報告書

<http://www.ur-net.go.jp/e-report/>

平成19年度  
独立行政法人都市再生機構の  
役職員の報酬・給与等について

当機構の役員の報酬及び職員の給与の水準に関する情報について、国民の皆様に分かりやすくお知らせするため、平成15年9月に総務省においてとりまとめた「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について(ガイドライン)」に基づき、当機構のホームページに掲載しております。詳しくは下記のアドレスをご覧ください。

<http://www.ur-net.go.jp/jkoukai/hoshusuijun>

Report 平成20年度 都市住宅技術研究所  
特別公開に行ってきました

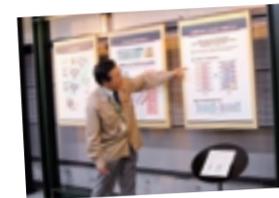
5月23日(金)・24日(土)の2日間、UR都市機構都市住宅技術研究所(東京都八王子市)では、特別公開を実施しました。第二会場となった清瀬実験棟(東京都清瀬市)での公開内容と併せて、会場の模様をレポートします。



第一会場

都市住宅技術研究所 in 八王子市

今回のテーマは「エコライフ」。UR都市機構が取り組むエコライフ技術を始め、地球環境に配慮した各種のテクノロジーを公開しました。注目を集めたのは、リニューアルしたKSI住宅実験棟201号室の初公開。学生対象のイベントや地震の模擬体験等、参加型の企画も人気を集めていました。



エコライフ技術のパネル展や学生対象企画も盛況でした

様々なエコライフ技術や老朽化したUR賃貸住宅の再生「ルネッサンス改修」の模型やパネル展示等、展示テーマ「エコライフ」に沿った企画も人気。小学生を対象にした風力発電装置作りや、大学生の模型製作等の企画も賑わいを見せていました。

今春リニューアルした  
KSI住宅実験棟の201号室

KSI住宅とは、機構版のスケルトン・インフィルの略称で、長期耐久性を有する躯体(スケルトン)と変化や更新への対応が可能な内装(インフィル)を分ける仕組みです。UR都市機構では、これまでに約14000戸のKSI住宅を建設しています。初公開の201号室は、社内アイデアコンテストで選出された床下空間を有効利用した換気設備や、子育てのための家事軽減設備を取り入れたモデルです。



リニューアルした201号室のモデル展示。子育て世帯を意識して収納の多いプランにする等、様々な視点から内装(インフィル)の可変性を生かした実験を行っている



左/床下空間を利用して換気設備も設置  
右/排水立て管を共用部にまとめることで、内装(インフィル)の自由度を高め、排水管のメンテナンスも容易に



UR都市機構が取り組んできた様々なエコライフ技術をパネルにして展示



大学生対象のイベントでは、43㎡の住宅のリニューアルプランの模型製作が行われた

第二会場

リニューアル実験モデル住戸 in 清瀬市

昭和40年代に建てられた清瀬旭が丘団地の一角を、リニューアル実験モデル住戸とした第二会場。昨年度公開された3つの改修プランの展示に加え、「高齢者向け自立支援型モデル住戸」を初公開し、注目を集めました。



左/浴室では、身体状況に応じて移乗台の移動を可能にする等の工夫を盛り込んだ  
右/ワンルームにすることで、介護しやすい間取りを実現している



バリアフリー、ワンルーム化で  
高齢者等の自立を支援

身体機能が低下した高齢者の自立や介護をサポートする「高齢者向け自立支援型モデル住戸」。安全性や移動容易性を確保した「バリアフリー化」、介助や見守りに配慮した「ワンルーム化」、身体状況や世帯構成に対応する「可変性」、IHクッキングヒーターや自然素材の採用による「快適・安心」、1階住宅の接地性を生かした「交流・見守り」をコンセプトに、KSI技術を生かしたプランを提案しました。



天井に設けたレールで、好きな場所に設置できる収納ボックス